

キャプテンズ・ミッション 2007年度 業務総括

業務全般

キャプテンズ・ミッションは全都道府県協会にて定着し、サッカーファミリー拡大に向けての施策が実施されている。都道府県内の活動のサポートと、精力的な視察や担当者との意見交換による課題の発見を行い、2008年度の活動目的に繋げた。

- 業務プラン 2010 の作成・発行を、JFA 事務局員全員の協力のもと行った。これにより、3年間の目標が明確になった。
- 全都道府県協会の法人化が完了し、常勤事務局体制が整備される等、組織体制の整備が進んだ。支部・地区／市区郡町村協会にも都道府県協会が積極的にミーティング等を働きかけ、連携が少しずつ良くなっている。
- 都道府県協会組織の充実のための基本還元金の更なる改善に努め、事務局補助についての交付金の増額を決定した。
- 2008～2010年度の各種支援制度を決定し、また2007年度決算および2008年度補助金額決定を確実に実施した。
- ミッション毎に都道府県協会担当者を集めたジョイントミーティングを開催し、他県の状況を知ることによる参加者の意欲向上、ノウハウの持ち帰り等に寄与し、参加者同士の横の繋がりを深めた。特に、全てのミーティングに一人プレストからグループディスカッションを行うという手法を導入し、活発な意見交換を行うことができた。
- JFAnews を活用し、毎月2～3の活動レポートの展開を行い、情報の共有に努めた。

M 1:「JFA メンバーシップ制度」の推進

- サッカーファミリーの定義を行い、そのコンセプトに基づき「ファン登録」について関係各所と検討し、2008年度の実施に向けて準備を進めた。また、JFA 公式 HP リニューアルとの連携、チケット販売との連動、情報提供の充実等に関する具体的なプランの素案を作成し、2008年度のトライアル実施に向けて調整を行った。
- 「JFA コミュニティ」を通じて審判・指導者登録メンバーへの情報提供を充実させるとともに、JFA コミュニティ登録推進キャンペーンを実施し、「JFA コミュニティ」登録者が14,000人増えて約30,000人となった。
- JFA 公式 HP リニューアルに向けて各登録カテゴリーへの情報提供体制を検討した。

M 2:「JFA グリーンプロジェクト」の推進

- 芝生の有識者へのヒアリングや芝生化活動の視察・実験等を通じて、プロジェクトの推進のあり方の検討を行い、天然芝の普及に向けた冊子の作成等の準備に着手した。
- 2008年度の都道府県フットボールセンター整備推進事業について、5件の交付決定を行った。また、助成対象となるクラブハウスの整備にあたり、全国のモデルとなる様なクラブハウスの整備を行うべく、当該助成対象者との調整を開始した。

M 3:「JFA キッズプログラム」の推進

- 都道府県の市区郡町村全域にて「JFA キッズプログラム」を展開していくことと、将来的に自主採算運営による活動へ段階的に移行していくという考え方を、ジョイントミーティング等を通じて都道府県協会担当者に広く浸透させた。
- 2007年度に引き続き、全ての都道府県協会が2008年度支援制度対象FAとして活動することとなった。
- 2008年度支援制度募集用の企画提案書フォーマットをデータ化したことにより、都道府県協会の情報を全体で比較・共有するための準備を進めた。
- J リーグアカデミー・4種関連の各種会議やキッズ関連刊行物・各種アンケート結果の展開を通じて、「JFA キッズプログラム」の現状および方向性を広く共有し、キッズ年代から4種年代への繋がりを促進した。

M 4:中学生年代の活性化

- 「トライアル FA 制度」対象 FA の積極的な活動や高円宮杯全日本ユース(U-15)サッカー選手権都道府県予選のリーグ戦推進等、様々な取り組みが継続され、登録チーム数が約 150、登録選手数が約 11,000 人増加する等、この年代の活性化が図られた。
- トライアル FA の活動視察や各種会議を通じて関係者とコミュニケーションを図り、ミッション名の変更等、次のステップに向け 2008 年度以降の新たな方針を策定することができた。
- 2006 年度末をもってトライアル FA の対象期間を終了した取り組みが、都道府県協会の自主事業として継続し行われる等、この年代の活動充実が更に進んだ。

M 5:エリート養成システムの確立

- キッズ年代のエリート選定基準を含めた「キッズエリート」のコンセプトを初めて提示し、また自主採算運営を中心とした事業マネジメントのコンセプトを具体的に提示することで、キッズエリートの活動が都道府県内の複数の拠点にて定期的な実施される様働きかけた。
- 全国的にキッズ年代のエリート活動が着実に広まっており、2008 年度支援制度対象 FA 数は 27 から 36 に増えた。
- 2008 年度支援制度募集用の企画提案書フォーマットをデータ化したことにより、都道府県協会の情報を全体で比較・共有するための準備を進めた。
- 「47FA ユースダイレクター研修会」・Jリーグアカデミー・4 種関連の各種会議・ジョイントミーティング等を通じて、キッズ年代と U-12 年代のエリートが連携していくための方向性を示し、都道府県内にて一貫した指導体制が構築される様働きかけた。

M 6:女子サッカーの活性化

- 2008 年度支援制度の主要テーマに「キッズ・4 種・3 種・女子の連携」を新たに加え、6 協会から企画提案を受け、採用した。
- 女子の活動が活発化されており、2008 年度支援制度対象数 41 協会 73 企画を採用し、予定数 60 企画を上回った。また、全国規模の大会(埼玉県 FA「高校女子サッカーめぬまカップ」や高知県 FA「トリムカップ レディースフットサル」等)の継続支援を図り、女子の競技会の充実・活性化に繋げた。
- 高校女子サッカー全国高等学校体育連盟加盟に向けた業務を行い、組織体制の整備・構築を図った。その結果、2007 年度は、全国高等学校体育連盟加盟条件を満たすことができなかったが、2008 年度申請に繋げることができた。

M 7:フットサルの普及推進

- 「トライアル FA」で支援した、大分県 FA の「ファミリーフットサルリーグ」で使われている「朝ごはんが作戦会議になる日」を、「ファミリーフットサル」のコンセプトの確立に活かし、JFA ファミリーフットサルフェスティバルの主旨に反映した。
- 体育館がフットサル競技に開放される様、体育施設・自治体向け機関誌「月刊体育施設」への連載に努め、フットサルの魅力や Fリーグを PR した。また、文科省主催「生涯スポーツコンベンション 2008」の分科会で、フットサル競技を通じてスポーツ振興を図るための諸施策について競技団体の立場から提唱する機会を得ることができた。
- チャレンジ FA で行われている「東京都 FA フットサル運営スタッフ登録制度」を見学研修会に設定し、試合会場設営方法や運営スタッフを確保する仕組みを研修し、全国から集まった担当者の活動意欲を高めた。

M 8:リーグ戦の推進と競技会の整備・充実

- CHQ 都道府県協会ミーティングをはじめとする各種会議において、都道府県協会の関係者と協議し、リーグ戦の共通理解を深め、2・3 種年代のリーグ戦実施に向けて都道府県の多くの取り組みが促進された。
- 2・3 種年代の年間・能力別リーグ戦実施に向けて検討し、支援制度の決定・展開を行った。
- M9.の支援制度(チャレンジFA)の対象FAとして取り組みを推進した「埼玉県 4 種リーグ」について情報共有が図られ、都道府県における 4 種年代のリーグ戦実施に向け関係者の話し合いがスタートした。
- 都道府県協会にアンケートを展開し、2005 年に発行した「JFA 試合運営ガイドブック」の使用頻度や改定につき調査を行い、更なる「競技会の整備・充実」に努めた。

M 9:地域／都道府県協会の活性化

- 5 回目の CHQ 都道府県協会ミーティングを実施し、2・3 種年代の能力別・年間リーグの推進、フットボールセンターの整備・活用等のテーマを中心に、JFA と都道府県協会では意義あるディスカッションを行うことができた。
- 都道府県チャートおよび都道府県協会収支状況の 2007 年度版を発行した。
- 都道府県協会の組織(支部・地区協会／市区郡町村協会)機構改革と未登録チームの登録推進(CHQ タスクフォース)に関して、2 年目の活動報告や各種会議を通じて、より一層の取り組みの必要性を認識し、2008 年度以降の支援制度の継続を決定した。
- 都道府県協会における地区／支部協会・市区郡町村協会との連結決算について、JFA の方針を策定、全国専務理事会議等で都道府県協会の関係者と議論する等、将来的に必要なことを確認した。
- 「チャレンジFA」として取り組みを推進した「宮城県民サッカーの日」を参考に「JFA フットボールデー」の制定について検討し、展開を行った。

M10:中長期展望に立った方針策定と提言

- 「JFA2005 年宣言」の浸透／PR ツールについて、都道府県協会からの意見を反映し、2006 年度ツールから改善したものを制作・展開した。また、ツール活用ガイドラインの整理に着手し、現状の活用状況を考慮しながら、より効果的に各種ツールが利用される様な仕組みを検討した。
- 各種会議等にていくつかの都道府県協会によって策定された独自の目標設定を好事例として展開し、「JFA2005 年宣言」の浸透を図った。

M11:スポーツマネジメントの強化

- JFA スポーツマネージャーズカレッジ(SMC)本講座(34 日間、10 セッション)を実施し、29 名が修了した。併せて、修了生に向けたリフレッシュ講座を京都で実施した。
- 2008 年度からの本格的な展開に向けて、愛知県と富山県で SMC サテライト講座のトライアル版(6 日間、6 セッション)を開催し、計 32 名が修了した。
- SMC の広報活動の一環として、JFAnews においてセッションのレポート等を行うとともに、SMC 紹介冊子の作成に着手した。

以上